

2016年1月28日

2015年度第3四半期決算説明会における質疑応答

日時： 2016年1月28日（木）17:30～18:30
場所： NEC本社ビル B1F（多目的ホール）
説明者： 取締役 執行役員常務 兼 CFO 川島 勇

質問者A

Q パブリック事業の年間計画にリスクがあるとのことでした。第4四半期に偏重となる傾向に関して、そもそも需要がないのか、期ずれなのか、顧客が投資を減らす方向なのかなど、もう少し教えてください。

A パブリック事業のIT領域は順調ですが、社会インフラ領域で遅れが出ています。お客さまのスケジュール変更、仕様確定の遅れなどがありますが、それぞれの案件の規模が大きく、第4四半期にシフトしてきています。失注した案件もありますが、まだいろいろと案件が残っています。

Q エネルギー事業ではどの領域が問題なのですか。ここはNECにとって注力領域だったと思いますが、業績が悪化しています。位置づけに見直しはありますか。

A エネルギー事業は、9カ月累計で当初計画に届いていません。電力会社の投資抑制の影響によるユーティリティ向けビジネスの減少や小型蓄電システムの未達が主な要因です。エネルギー事業については、系統向け蓄電システムの領域を市場の立ち上がりのタイミングも含めてどのように捉えていくか、検討が必要です。市場が無くなっているということではなく、立ち上がりが遅れている状況に対し、我々がどうするか次期中計策定に向けた議論の中で見極めていく必要があります。

Q パブリック事業の消防防災は、需要がピークアウトしていると思いますが、想定より売上減となっているのですか。

A 消防防災のピークアウトは、概ね想定どおりです。

質問者B

Q テレコムキャリア事業の国内移動の領域について、第4四半期での受注・売上の確度は高いと考えていますか。パブリック事業の第4四半期の売上高は、どの程度受注に裏付けされていますか。費用削減を進めるとのことですが、どのような領域で削減余地がありますか。

A テレコムキャリア事業は、第3四半期までの国内キャリアの設備投資の進捗が例年よりも遅れている印象です。その分、第4四半期での投資に期待しています。LTE基地局には一定の投資があると考えています。パブリック事業でも、進捗の悪いプロジェクトを個々にフォローしています。費用削減については、今になって慌てて着手しているわけではありません。上期末の時点で売上のずれが見えていた案件に対し、売上の確度が高まったタイミングで費用を使うように各部門に指示しています。第4四半期に売上が確保できる場合は、費用も使っていきます。

Q 2016年度のパブリック事業の売上をどのように考えていますか。

A 来年度の予算編成はこれからなのでコメントできませんが、お客さまの仕様が固まらずに受注が遅れている案件があることは認識しています。ただ、これらの案件は、今年度の計上が難しい場合でも、来年度には計上できると思います。年間でどのようになるかは、もう少し精査する必要があります。

Q 3カ月前と比べて、経営環境が変化しているところはありますか。その変化について、社内に周知する策は打っていますか。

A 足元のIT投資環境は順調です。年明けから株価や為替が乱高下しており、企業経営者のマインドが低下すると投資意欲への影響も考えられますが、現時点でそのような動きはありません。上期は先行的に費用を使おうとしていましたが、昨年秋口からは先行費用を抑え、リスク感を持って案件獲得が見えてから使うように変更しています。

Q 費用削減が第3四半期の実績に結び付いていないように見えます。第4四半期に効果が出てくるのですか。

A 上期に第4四半期から前倒して使った分の改善は見込めます。加えて、案件ごとに費用の使い方を相当意識しています。

また、スタッフなどの間接部門では、この下期からNECマネジメントパートナーの従業員を1,000名単位で玉川事業場に集め、働き方改革を推進しています。間接部門での

残業管理なども含め、より効率良く働くことを意識して取り組んでいます。第4四半期のお金の使い方をそれぞれで見直しており、売上獲得により利益を上げられる範囲では費用を使っています。

質問者C

Q テレコムキャリア事業の第3四半期での計画値との差異要因として、国内需要の第4四半期へのシフトとモバイルバックホールの記載がありますが、どちらの影響が大きいですか。

A 売上、損益ともに半々ぐらいのイメージです。

Q 他社ではキャリアの投資動向を踏まえて業績予想を下方修正する動きもありますが、テレコムキャリア事業の計画値を変えない理由を教えてください。

A 国内需要の第4四半期へのシフトに期待しています。一方で、受注や売上が計上できない場合のコンティンジェンシーとして費用改善も進めています。国内キャリアの設備投資計画が年間ベースで大きく変わったとは考えていません。

質問者D

Q 9カ月累計の営業利益が会社計画比でどうだったか、セグメントごとに整理してください。

A 全社の営業利益は、9カ月累計で180億円程度の下振れです。その内訳として、パブリック事業は160億円程度下振れ、エンタープライズ事業は50億円程度の上振れです。テレコムキャリア事業は80億円程度の下振れ、プラットフォームは想定どおりです。その他は50億円程度の下振れ、消去・配賦不能が60億円程度の改善です。

Q 第4四半期の見通しが期初の計画に対してどう変化しているか、セグメントごとの挽回策も含め教えてください。

A 仮に営業利益のリスクのイメージが実現したとしてご説明します。

パブリック事業は、年間で100億円程度のリスクがあると考えており、第4四半期は期初計画に対して60億円の上振れが必要となります。まず、上期に費用を前倒しで使ったものが30億円程度あり、その分は第4四半期で改善します。不採算案件も上期に発生しましたが、第4四半期は抑え込むべく管理をしています。売上にリスクがあります

が、その影響は効率化や費用改善で挽回していきます。エンタープライズ事業は、9カ月累計で50億円程度上振れています。年間では70億円程度上振れと想定すると、第4四半期で20億円程度の改善が必要です。年間の売上高は前年度比10%強の伸びを期待しており、それによって利益改善できると考えています。テレコムキャリア事業は、9カ月累計で80億円程度下振れています。第4四半期に売上がシフトしている部分での損益改善に期待しています。加えて費用も保守的に管理しています。第4四半期は、売上のリスクを費用改善でカバーし、80億円程度上振れを狙います。システムプラットフォーム事業は、売上にリスクがありますが、ビジネスPCが中心となるため、損益的には影響がないと考えています。その他は、9カ月累計で50億円程度下振れており、年間でリスクが顕在化すると70億円程度の下振れになります。第4四半期は、エネルギー事業でリスクがあり、追加で20億円程度の下振れとなる可能性があります。消去・配賦不能は、9カ月累計で60億円改善しています。費用をどこまで使うかということになりますが、これまでと同じようには使わないという管理も含め、第4四半期で40億円程度の改善を実現していきたいと思えます。

Q 会社計画に対する遅れが目立っていますが、この背景は何ですか。

A パブリック事業では、プロジェクトが大型化しており、いろいろなことに時間がかかっていると理解しています。テレコムキャリア事業は、第4四半期に期待しています。今年度は、パブリック事業とテレコムキャリア事業の遅れが、偶然重なったと考えています。

質問者E

Q 昨年のパブリック事業説明会では、来年度も増収増益が期待できると説明していたと思います。一方、足もとでは予定どおりにビジネスが進まない案件が複数出ているようです。NECの中でプロジェクトの進め方に問題はないのですか。また、テレコムキャリア事業は、第2四半期に増収増益となって安心していましたが、第3四半期の数字は悪かったと思います。第3四半期に想定していたものが第4四半期にずれたのですか。この状況は想定していたのですか。

A パブリック事業は、社内のプロセスが良くないということではなく、案件が大型化する中で時間がかかっているものと理解しています。特別な事態が起きているというこ

とではありません。途中で仕様が変更になって遅れるなど、受注に至るまでのプロセスで時間がかかっています。テレコムキャリア事業では、第3四半期に期待していたもので第4四半期にずれたものがありますが、しっかりと案件を獲得していきたいと考えています。お金の使い方もシビアに考えて動いています。

Q 今年度、法人税率の引き下げに伴う繰延税金資産の取崩しはありますか。その金額の規模感を教えてください。また、今年度の業績予想には欠損金活用を織り込んでいないということで良いですか。NECモバイルの清算やルネサスエレクトロニクス株式の売却が実現すれば活用できますか。

A 法人税については、税率変更が国会で決まった場合、昨年度同様に2%程度が引き下げられます。断定的な数字は言えませんが、昨年は100億円程度の繰延税金資産の取崩し起きたので、それに近い数字になると考えています。そのような状況になっても影響がないようにしたいと考えています。期初の業績予想では、特別損益として100億円程度の損失を予算化しています。一方で、9カ月を終えた時点の特別損益は、株式売却なども含め50億円程度の利益となっています。年度末に向けて精査していきますが、税率変更への対応は可能だと考えています。

欠損金活用は、計画に織り込んでいません。

Q 4つの注力領域の売上は1.5倍以上に拡大していますが、注力領域トータルでの損益改善はどの程度ありますか。SDNは今年度、実証実験を行っており、まだ成果には繋がっていませんが、来年度は増益要因として期待して良いですか。

A 今年度は先行投資もあり、利益貢献という状況ではありません。来年度以降については、次期中計の中で説明させていただきたいと思います。

質問者F

Q 営業利益は9カ月累計で会社計画に対して180億円下振れとのことですが、第4四半期で挽回可能ですか。上期に遅れている部分が続いているのですか。

A 上期に遅れが見えていましたが、パブリックを中心にまだ挽回できず長期化しています。

Q テレコムキャリア事業では、第4四半期の会社計画比で80億円の営業利益上振れが必要となりますが、残り2ヶ月で実現可能ですか。

A 国内キャリアの需要が第4四半期にずれしており、それを取り込むことで利益計上してい

きたいと思います。一方、上期が終わった時点で、費用管理では投資先行型から売上見合いに変えて動いています。その効果は第3四半期から出始めており、第4四半期も出てくると考えています。これらを合わせて、80億円の上振れを1つのターゲットとして取り組んでいます。売上については海外を中心にリスクがあり、年間で前年度並みと考えていますが、国内でカバーしていきたいと考えています。

Q 南米でのSDNのプロジェクトに進展はありますか。

A ブラジルのVIVOでは、実際のネットワークを使った実証実験を進めています。トラブルが起きているということではなく、時間がかかっており、現時点で正式受注には至っていないということです。実証実験は進んでおり、日々前進していると考えています。

質問者G

Q パブリック事業では、年間の営業利益計画に対して100億円程度の下振れのリスクがあるとの説明でしたが、このままで進んだ場合100億円程度下回るということですか。

A ご説明した業績予想は社内予算と同じです。各事業部門は目標に向けて努力しています。リスクというのは、その中で何かが起きた時の変動可能性としてご説明しました。

以 上